

自己評価シート【平町児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（１） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	利用者の方に理解してもらいやすいような文章にし、館内の目につきやすい場所に掲示、またはパンフレットなどにも記載し周知をしています。
1－1－（２） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
理念や基本方針を確認しながらイベントの企画を行い、小中学生におたよりとして配布しています。児童館がどのような場所なのか利用者に分かりやすいように児童健全育成推進財団が出している文章などを使い掲示しています。	理念・基本方針に記載されていますが、まだ実施できていない事項に関して、どのように取り組めば良いのかを考え、実施していきたいです。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（１） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	施設特性を活かせるよう地域施設との連携を密にとり、良好な関係を築いています。近隣中学校とも連携を取り乳幼児や小学生と触れ合える機会や体験を取り入れ地域の健全育成の場としての環境作りが出来るようにしています。
2-1-(2) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	イベントを行う際は、館内のみでなく近隣施設を貸していただくこともあれば、近隣保育園からはあそび場として多くの利用があります。 また住区住民会議や学校のイベントにもスタッフとして参加。自館のイベントにも地域施設に協力してもらいながら地域の方との関わりを大事にしています。子どもたちが児童館だけでなく様々な施設を知ることにより地域全体で児童の見守りが出来るよう取り組んでいます。
2-1-(3) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) - (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	地下1階多目的スペースでの遊び方では児童から出た意見を他の子どもたちとも共有し「こども会議」として話し合いの場を設けながら決めています。 自館で行っているイベントでは子どもたちの声を大事にし、実現に向けてどのようにしていけばよいか職員と子どもたちで話し合いながら取り組んでいます。
2-1-(4) 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
年齢問わず、一人でも来て良いのだという安心感を感じてもらえるように、子どもたちが安心して過ごせる居場所作りを心掛けています。 地域との協力の必要性について職員間で共有しています。	今後ガイドラインの改正に合わせて職員間で再度確認を行い、理解を深めていきたいです。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)	
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	日頃から積極的にコミュニケーションをとるようにし、普段の様子と変わりがないか等、変化を見逃さないよう子どもたちに寄り添いながら関わるように意識しています。また、共有が必要な児童に関しては職員間で関わり方などを相談し、記録を取ったり、必要であれば学校・関係機関とも連携をとり、居心地のいい環境作りが出来るよう心がけています。
2-2-(2)	
子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	イベント企画、または遊びの内容はすべて子どもたちから提案があったものの中からみんなで相談し決めています。 遊びを通して子どもたち同士アレンジを加え、自分たちで考えた遊びもイベントとして皆に発信し遊びの幅を広げることが出来ています。
2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。	

(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	毎週行っている乳幼児向けのイベント「プチ JUMP-JAM」に、様々な学年の小学生たちが興味を持ち参加するようになりました。その際に乳幼児との関わり方、遊び方について一緒に考えながら取り組むようにしています。 ボール遊びでは中高生の参加も多いので小学生とうまく遊ぶことが出来るよう、「こども会議」にて双方の意見を出し合いながらルールなどを決めることで年齢に関係なく遊ぶ姿が見られています。
2-2-(4)	
遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
みんなでこの遊びをやってみたい！という気持ちからイベントの企画をする子どもも多く、イベントを通して主体性や自立心を育み、運営も自身で行うため達成感を感じています。また、普段の遊びの中でも皆で相談して決めるので、ただ体を動かすだけでなく、協調性や社会性も育むことが出来ています。	遊びが定番化してしまっているので普段行っていない遊びだと入る際に躊躇してしまう様子も見られています。日頃から様々な遊びを職員が提供、積極的に遊びに入り「楽しいよ」ということを伝えるなどして輪の中に入れるような声掛けをしていきたいです。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1)	
緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☐ a)、 ☒ b)、 ☐ c)	毎月避難訓練（火災・地震・防犯含む）を実施。 事故・怪我が起きた際にはすぐに職員間で連絡を取り合い連携がとれるようにはしていますが、感染症に関する嘔吐などの対処を職員全員が適切に対応できるような体制をとっていきたいです。
2-3-(2)	
利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】	

(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
□a)、 ☒ b)、□ c)	定期的に玩具の点検を行い壊れている物がないかを確認しています。 危ない遊び方を見つけた際には職員間で共有し対応を統一していますが、時々見落としもあるので誤飲などがないよう、安全に過ごしてもらえるような環境作りを今後も徹底して作っていけるよう心がけていきたいです。